

## 弟へ

熊谷かおり（神奈川県横浜市／42歳 女性）

「私にはね、弟がいるの。でも産まれて来れなかったから、実際は居ないんだ。でも私は、二人兄妹じゃなくて三人きょうだいだと思っっているよ。」

仲良くなった友達に、私はアナタの事をこんな風に話しています。きつと敢えて言う必要はないのかも知れないけれど、私にとってはたった一人の弟なので、紹介しています。

私が中学生ぐらいの頃、「アンネの日記」を読み、それに影響を受け、彼女の真似をしてアナタへ手紙を書くように、日記を書いていたのを覚えていますか？ 今思うと凄く恥ずかしい事をしてたんだなあと思います。あの頃は、あんな風にアナタとお話するのが、とても楽しくて幸せでした。

今、昔ほどアナタを考える事はありません。それは私にも悲しいお別れが、我が子とあったからです。だけどそれに気付いた時、とても切ない気持ちになったし、申し訳ない気持ちになりました。が、お母さんは、そんな私を責めず、「それでいいのよ。」「たまに思い出ししてくれるだけで、お母さんは嬉しい。」、そう言ってくれました。でも、やっぱり心苦しさは否めません。だからまた、アナタへ手紙を書こうと思います。お父さんの事、お母さんの事、お兄ちゃんの事、私の夫の事、娘の事、そして私の事。包み隠さずいろんな事を書くので、覚悟しておいてくださいね。

いずれ、お父さんとお母さんがアナタの住む世界へ旅立つ日が来るでしょう。その時は二人を抱きしめて「お父さん、お母さん」と呼んであげてください。きつと二人は愛情を込めてアナタを抱きしめてくれると思います。お兄ちゃんが旅立つたら、男同士の話を誘ってあげてください。きつと喜んでいろんな事を話してくれると思います。そして、いよいよ私の旅立つ日が来たら、迎えに来てください。その時、ずつとずつとアナタに言っただけの言葉をお聴かせください。そして、この手で抱きしめさせてください。それから、ゆつくりゆつくり語り合いましょ。

それまで、あと少し、もう少しの間、そちらで待っていてください。

掛け替えない私の弟へ

お姉ちゃんより